

第35期第6回長崎県社会教育委員の会議 議事録

|            |  |
|------------|--|
| 開催日時       | 令和2年6月11日(木) 14:00~16:30   |
| 開催場所       | 県庁大会議室A,B  |
| 出席者        | <p>【社会教育委員】<br/> 江頭委員長、稲田副委員長、郷野委員、福田委員、池山委員、松尾委員、迎委員、有川委員、中野委員、野間委員、久保田委員、梅木澤委員、藤田委員、武原委員(リモート) 計14名</p>  |
|            | <p>【事務局】<br/> (生涯学習課)<br/> 立木課長、米村総括、棕本参事、西平参事、川尻係長、宮地係長、土屋係長、金丸指導主事、中野指導主事<br/> (義務教育課) 末永課長補佐<br/> (高校教育課) 嶋藤指導主事、中村指導主事<br/> (特別支援教育課) 近藤参事<br/> (地域づくり推進課) 吉田参事、竹森主任主事<br/> (人権・同和対策課) 丸山補佐<br/> (長寿社会課) 久間係長<br/> (こども未来課) 楠富指導主事<br/> (若者定着課) 浦井係長<br/> (都市政策課) 添川補佐、浦田主事</p> <p style="text-align: right;">計21名</p> |
| (1)開会      | <p>○事務局<br/> 会議は間もなく開会となります。<br/> 本日は新型コロナウイルス感染防止対策として、会場入口での検温、消毒液の利用、マスクの着用にご協力をいただき、ありがとうございます。<br/> また、皆様の中で発熱やせき喉の痛み、強い倦怠感など、新型コロナウイルス感染の症状と思われる状況がございましたら、生涯学習課の職員までお知らせください。</p>   |
| (2)委員長あいさつ | <p>○事務局<br/> ただいまより第35期第6回長崎県社会教育委員の会議を開催いたします。</p> <p>初めに江頭委員長よりご挨拶いただきます。</p> <p>○委員長<br/> 皆さん、こんにちは。<br/> 今日は大変、足元の悪い中にご参加をいただきまして、ありがとうございます</p>   |

(連絡・報告事項)

います。今日は第 35 期の、最後の会議ということになりますが、昨日、別の会議で県庁に来てましたが、私学の教育活動についての評価会がありました。その会の主な議論は、コロナの問題です。アフターコロナはおそらく来ないだろうと。with コロナ、コロナとどうつき合いながら、この後に、例えば私学の振興を進めて、学校教育活動、或いは社会教育活動を進めていくか。こういうことが極めて大事になってくるのではないか。現場でのことを今までの通りやっていくようなことはおそらくこれからは難しい時代になって来るのではないか。

だから、教育活動の停滞や学力保障、これをどう進めていくかということに、大変苦心している。私学の状況というものを知ることができました。

おそらく、ここにおられる事務局の皆さん、協働課の皆さん方の事業も、4 月 5 月とほとんど停滞をしていたのではないか、というふうに思っております。「with コロナ」というのを前提とした事業運営が求められる時代になってきた。

ダーウィンの言葉に、「最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るのでもない。唯一変わることができたものだけが、生き残る。」という有名な言葉がありますが、時代が変わってきて、社会が変わってきているなら従前通りの教育の推進でいいのか、という議論は当然出てくるんだろうというふうに思っています。

今日は、第 35 期を振り返りつつ、これから先の、時代の様相や社会の様相を踏まえた、社会教育活動の在り様、そして 36 期にどういう課題を申し送るかということについて、ぜひ皆さん方と一緒に議論をしていただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○事務局

それでは、事務局の生涯学習課職員で、今年度新たに転入しました職員をご紹介します。

##### (生涯学習課、新たに転入した職員の紹介)

本日の委員の欠席の報告をいたします。

本日は、小柳議員、菅委員が所用により欠席となっております。

また、吉岐にお住まいの武原委員は、本日リモートでのご参加をいただいております。

本日の会議は、開催要項に記載の通り、途中、10 分間の休憩を挟みまして、16 時 30 分終了予定となっております。

なお、会議終了後に、第 35 期及びご参加の皆様と写真撮影のお時間をいただきたいと思いますので、ご協力お願いいたします。それでは協議に入ります。

ここからは、長崎県社会教育委員に関する条例に従いまして、江頭委員長に議長として議事進行をお願いいたします。

#### ○江頭委員長

それでは今から協議に入りますが、全体会に入る前に、事務局から幾つかの連絡をお願いいたします。

## ○事務局

それでは、お手元の資料 1、令和 2 年度社会教育関係研修会等一覧をご覧ください。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、多くの研修会や大会が当初の予定から変更になっております。その主なものだけご報告させていただきます。

まず、8 月 18 日、19 日に開催予定でした長崎県社会教育研究大会は、まだ確定ではございませんが、書面発表の方向で話し合いの方が進められております。次に、8 月 24 日、25 日の長崎県人権教育研究大会は中止となっております。次に、県公民館大会は、現時点では予定通りとなっております。PTA 研究大会は開催について検討中とのことです。

今年度長崎で開催予定でした「全国地域婦人団体研究大会」は、令和 3 年 11 月 1 日、2 日に延期となりました。沖縄で開催される九州ブロック社会教育研究大会と新潟で開催される全国社会教育研究大会は、予定通り開催するとのことで連絡をいただいております。なお、来年 11 月 11、12 日の、九州ブロック社会教育研究大会は、長崎大会となっておりますので、県の社会教育委員連絡協議会が中心となって、8 月に第 1 回の実行委員会を開催予定です。

また、生涯学習課主催のスキルアップ連続講座の第 1 回目につきましては、こちらの一覧では 7 月 2 日 3 日となっておりますが、先日生涯学習課よりご案内させていただきましたとおり、7 月 2 日のみの 1 日のみの開催となっております。

この一覧に掲載しております研修会等は、現在日程と開催を検討中のもものございますので、今後変更となる場合もありますことを申し添えさせていただきます。

事務局からは以上です。

## ○委員長

今の各種研修会についての報告がありましたが、何かご質問等ございませんか。

それでは、これから全体会に入ろうかと思いますが、この 35 期に限らずですが、34 期、35 期は平成 28 年に作りました答申「活力ある地域づくりに貢献する実践的人材の育成方策」。このことをいかに具現化していくかということで、提言した施策が事業にどう反映されていくかということについてこの間、いろいろなところと話をしてきました。

当然そのときに、「協働」がキーワードですから、知事部局の関係課に大きな力をいただきながら、社会教育の事業がちょっと変わり始めた、そういう印象を持っております。

ちょっとです。そのことも含めたご報告を少し事務局の方からしてもらおうというふうに思っております。お願いします。

(3)事業等報告  
(答申をふまえた事業の取組)

○事務局

今から後ろのプロジェクトに、画像を映しながらお話をさせていただきたいと思っております。今、委員長の方からお話がありました通り、第33期に「活力ある地域づくりに貢献する実践的人材の育成方策」ということで、33期にまとめたものを、34期35期と検証を進めて参りました。

この間、江頭委員長が32期から委員長になられましたが、教育委員会生涯学習課だけが最初は参加をしてたおったんですが、それが今は、協働課ということで本日の開催要項にもありますように、11課が関わるような社会教育委員会になりました。育成方策の方では、プラットフォームをつくる、協働プログラムを作る、実践的人材を育成するという三つの観点から、提言をいただき、また、本資料の2ページにありますように、中央審議会の方で、人口減少時代の新しい地域づくりに向けた、社会教育の振興方策、これが、これよりも前に、長崎県の方では、先に提言を出してプラットフォーム、協働プログラム、実践的人材の育成という方策を出して、それが国が後で追いつくというような形になっております。国の方は、人づくり、繋がりづくり、地域づくりに向けた具体的な方策として、学びの参加のきっかけづくりの推進多様な主体との連携、協働の推進、多様な人材の幅広い活躍の推進等が出されておりますが、長崎県の方が、これよりも前に提言していたということで、すごく価値ある答申だったと思っております。

これが具現化されたものが、2月に行われましたスキルアップ連続講座になります。本資料につきましては5ページからになっております。

今、画像で出ておりますが、スキルアップ連続講座におきましては、地域づくり推進課の方から平戸度島のまちづくり運営協議会の森さん、県立長崎南高校、佐世保西高校、これは高校教育課の方から紹介いただいて、高校生による「バリアフリーで長崎の魅力アップ・食で佐世保を豊かに」ということで、学校で学んだことを、ここで提言をいただいたところです。

4人目が、飯盛地区の地域共生助け合い隊の藤本八重子さん。この方は長寿社会課と地域づくり推進課の2課から推薦をいただいて、登壇いただきました。

4グループに実践発表いただきながら、100人以上の方にお集まりいただき、素晴らしい実践発表をもとに、そのあと、私の方でインタビューダイアログという形で、それぞれの実践発表について少し掘り下げつつ、最後には四つの実践ごとに、コーナートークという形でお話をさせていただきました。どのコーナートークも、とても有意義で活発な、お話をいただきました。これも協働課と、生涯学習課と一緒に取り組んで様々な研修のあり方をこれまで模索して参りました、その成果であります。

協働することによって、こうやって多世代多分野の方々と一緒になって学ぶ機会が持てたということは素晴らしい第一歩だったと思っております。

また、お手元の資料の7ページ8ページからは、そのスキルアップ連続講座のアンケートの結果が出ておりますが、満足度100%をいただきました。

た。研修会において100%の満足度をいただくということはなかなかないんですが、参加者の皆さんもとても満足をされておられます。

中でもいろんなアンケートの回答をいただきましたが、行政以外の参加者の方から、「行政の目線以外の目線や、様々な世代の目線は行政では考えつかないような、とても斬新な、アイデアが含まれてはっとさせられました」などというご意見もいただいて、やはり、行政だけで考えなくてこういうところで様々な、多分野の方々、多世代の方々とは協働して学ぶことによって、より深い学びに繋がるということがわかったところです。

今回、33期の答申をもとに、一つのゴールではありませんけれども、一つの形として今回のスキルアップを見直した時に、このような体系でまとめることができるのではないかとということで江頭委員長から資料をいただいておられますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。

以上で、これまで33期の答申をもとに、検証を進め、一定の形としてスキルアップ連続講座を2月に行って現れた、一定の検証についてご報告をさせていただきました。

#### ○委員長

これまでもいろんな形で、他課のお力を借りながら、一緒にやるということの一つの課題としながら進めてきましたが、この事業は、その意味では非常にシンボリックな事業になったんだろうというふうに思います。

地域づくり推進課と生涯学習課が共催をするという形、これは初めてだと思います。100人集まったんだしたら、お互い100人の実績というふうにすればいいわけで、そういったものと一緒にやりながら、成果を分けていく、というようなものの考え方を是非進めていっていいんだろうというふうに思っています。何より、一緒に事業をして、一番違ったのは、生涯学習課だけなら、社会教育関係者しか研修には来ないんですよ。

学校の先生も来る、教育委員も来る、社会教育委員もいる、まちづくりのいろんな組織の人たちも来る。実に、参加者百人の中身は多彩だと。それは一緒にやれたから、あれだけの人間が集まってきたんだと思う。ここに、他分野が協働できる素地を作る。研修の有り様の一つのモデルとなりました。そして、自信を持っていいんだろうなというふうに思ったりしています。この件について何かご質問等ございませんか。

3年ぐらい前に全国の社会教育委員連合からご依頼があって、社協情報という冊子に原稿掲載したんです。社会教育委員活動の見える化というテーマで、そしたら、国立社会教育実践研究センターの方から取材をしたい。そして「社研の窓」という研究所の、情報番組に掲載するというので去年の秋口に取材を受けて、4月ごろにアップされています。34期以降の皆さん方の活動について、私は話をさせていただいている部分があるので、事務局に内容を確認をしてもらった上で、取材に応じたものだというふうにお含みおきいただければと思います。よろしくお願いします。

○「社研の窓」  
視聴

(「社研の窓」視聴)

### ○委員長

社会教育なんて繁栄しなくていいんだと僕は思っているんです。社会教育は手段でしかない。結果、子供たちが健やかに育って、お年寄りも安心してふるさとで生きていけて、みんながいい顔しながら、ふるさとへの思いを深めていくという、そういう人の有り様が生まれてくれればいいわけなんです。ただ私たちは、それを実現していくために、社会教育委員という立場をいただいて、だからそこで何ができるかということを考えていくということが必要なだろうと。もともと社会教育は幅広の教育分野だと。

それを、社会教育行政だとか公民館だとか、そこをやることが社会教育だというふうには矮小化してきた経緯があって、社会教育が元気がなくなってしまったというふうに誤解をしてしまった。しかし、実は、学校の教育課程を除く、青少年及び成人を対象とした組織的な教育活動は、実に今、グローバル化とか、人口減少だとか様々な地域状況の中で活性化している。だから、活性化している社会状況が社会教育行政ではないからといって、関係ないという顔をしてきた、という歴史が、社会教育をめぐる現実なんだろう。だから、まちを元気にしていくために、みんなで手を繋いでいこうと。そして、いい顔でふるさとで生きていける人たちを育ていこう、と、そういうリーダーを作っていこう、というんだったら、どこも手を繋いでいっても構わない。いうふうに私は思っているんです。結果は、まちが元気になっていけばそれはそれでいいんだと思っています。ただ、社会教育法の定めは、県の社会教育委員の会議だとか、知事部局との連携がどんなに上手いこうと、これはこの範囲の中の話でしかない。実際は、市町が行うことになっているんですよ。県がいくら元気で、市町が動かなければ、それは社会教育が進行しているとは言えない。知事部局の仕事も、学校教育行政の仕事も、学校が子供が、或いはまちづくりの組織団体が、地域の人たちが元気になって初めて施策が実現した、ということになるわけです。だから県だけの話ではなくて、市町がどう動くか。そこには、私たちが、どう関わっていけるかということが次の議論になってくるんだろうと思う。その中で、長崎県の中で頑張っているところをいくつか紹介できればというふうに思っています。事務局お願いします。

### ○事務局

それでは、今から市町の取組ということで、南島原市、西海市の取組について、ご説明をさせていただきます。まずは、南島原市の取組が地元のケーブルテレビで紹介された映像をご覧ください。

(南島原市「地域の力を考えるつどい」DVDの視聴)

令和元年度の地域の力を考える集い、触れ合い繋がり支え合いでふるさと元気に、という南島原市の取組みになります。ここでしっかり見ていただきたいのが資料にある要綱の3番の主催のところを見ていただきたいですね。南島原市では、自治会連合会、それから南島原市、それから南

### ○市町の取組 (南島原市の取組)

(西海市の  
取組)

島原市の教育委員会という形が主催をされています。

まずは、地域の自治会が主になって、そして市民生活部のような、市町、市役所の部局、それから、社会教育を推進している生涯学習課、この3者が主催をして、地域の力を考える集いを行っております。平成29年から3年、続けて今年で4年目になります。今年度は、中学生、それから高校生、そして地域の方が集まって、そして中・高校生の発表を聞き、そしてワークショップでは、中高地域の方々がそれぞれ話し合いをしよう、ということで話を進めております。住んでいる中・高校生も、地域の当事者として、参加させることによって、自分たちのふるさとを見直す。自分たちのふるさとをしっかりと見据えて、自分たちで何ができるのかを発表します。地域の大人はそれを聞きながら、大人である私達は何ができるかっていうことを考えるとといった地域内の取組に繋がっております。

続きまして、資料は、1枚めくっていただきまして17ページをご覧ください。令和元年度の西海市の生涯学習の集い開催要項を掲載しております。要項の4番の「主催」をご覧ください。教育委員会と一緒に主催をしているのが、社会教育委員の会議です。

社会教育委員が実際に自分たちは何ができるかということで、社会教育委員会の中でこの生涯学習の集いどうやって取り組むかということを考えられ、実際に取り組まれたものになります。スクリーンに写真を映しておりますが、当日は会場の公民館に100名ほどお集まりいただいて、西海市にある西彼農業高等学校の発表をいただきながら、そして、高校生の生の声、私の方でインタビュー・ダイアログで思いを引き出しながら、校長先生と登壇をされた高校生4人と、それから、会場の皆さんとやりとりをしながら、お話をさせていただいたところです。

西彼農業高校の原口校長先生が、若い力をどう生かすかっていうことで西彼農業での取組をお話をされながら、その中で、この4人の高校生が関わっているそれぞれのグループの発表をしていただきました。

4人とも、実は西海市内に就職をしたり、進学先に西海市から通う、とのこと。「そんなに好きなの？」と聞いたんですけども、「こんなに自然豊かでいいところはない」と、子供たちが言い切っております。西海市で生まれ育ったということをすごく誇りに思っている、という意見もありました。

中でも写真一番端の子は、「将来は市役所で西海市の力になりたい」という話をしてくれました。「とてもいいな、西海市を自分たちの誇りに思える子供たちができているな」というふうに思ったところです。高校生から西海市の特産品をうまく使って何かできないかという内容の発表がありましたので、参加されていた婦人会長さんに聞いたんです。すると、こんなふうにしたら、おいしいケーキができるかもよって言って教えてくれたりとかしてですね、地域の皆さんと高校生がやりとりする中で、皆で笑いもあつた、皆さんで話をしたところでした。

こうやって西海市、南島原市の取組については、ほぼご報告をさせていただきましたが、それぞれの地域で参加される方が当事者となって、しっかり自分たちのふるさを見つめ直して、開かれ、繋がる社会教育ということで、お互いに結び気を結びつきを強くしながら、自分たちのふるさを見直しながら、そしてSDGs的な考え方で持続可能な地域づくりとすればいいのかっていうのを、取り組んでいる市町の二つの報告でした。こういう事例が各市町で広がっていくことが、私たちのこの県の社会教育委員会が、次に進むべき道の一つのかなと。これを広げることが私たちのこれからの責務じゃないかなというふうに、担当としては考えているところです。以上で報告を終わります。

#### ○委員長

ありがとうございます。二つの市の取組の発表がありました。だけど、21市町がそんなことをすべてやっているわけじゃないんですよ。ただ、いい意味での温度差が、出てきているということで、南島原らしい。地域づくり推進課の参事さんなんかよくご存知と思うんですが面白い取組をしているところがたくさんあるんです。南島原市の事業自体は、評価されて、また予算がついて、かなり長い期間の継続が可能になったということです。今年度からは、主催に福祉を入れる、というようなことで、間口を広げるそうです。高齢化の進んでいるまちが福祉を抜きにして語ることはできないわけですから、南島原市では福祉の問題、まちづくりの問題、環境の問題、若者定着の問題、など様々な問題を、ひとつのステージで議論ができる環境が生まれてきているっていうのはそれはそれで素晴らしいことだなと思います。例えば私たちは、21市町の特色に応じ、特徴に応じた、そういう事業展開がすべての町でできるようになるといいな、目指すべきはそこだろうなというふうに思っています。それではこれよりいったん休憩に入ります。

(休憩)

#### (4) 意見交換

#### ○委員長

それでは、後半部分を始めたいと思います。さっき言いましたが、後半部分はぜひ、みなさんからご意見をいただきたいと思います。35期の2年間の活動を通して一度活動の成果、市町の実情についてDVDとかを見ていただいたわけです。自分らの活動を振り返りながら、率直な感想というものを下敷きにしながら、「まだこんなところに課題は残ってるよね。これからこんな方向も大事なんじゃないか」と思われることを独任制という立場で今、それぞれの役割を、果たす中で見えてきたこと、そんなお話を委員のみなさまにいただければなというふうに思っています。「これまでを踏まえてこれからを考える」という視点でぜひご意見をいただければと思っています。そのきっかけの一つとしてお手



元にこういう資料が配られているかと思うんですが、「8年間の歩み」という資料です。これはもうほとんどが、さっきのDVDの中で紹介をされていることなんですが、ただ一つカットされていることがあるんです。社研の窓からカットされたのはこの「11番目」なんです。私が一番褒められているのは11番目なんです、県の社会教育委員会、社協委連の会議等の参加者に懇親交流会という、要するに「飲み会」を増やした。ということをお話していただきました。

だから、より身近に互いを感じながら、長崎県の将来について語り合っただけで、今自分の役割の中でできることはなんだろうということを考えていくための、力をお酒から借りた、というだけの話なんです。だからそういったつもりでお話をしていただければと思います。

### ○委員

私も先ほど、社研の窓のビデオを見ながら、自分の委員としての活動を振り返ってました。いろんな提言等もしないといけなかったのかもわかりませんが、なかなか自分自身が、社会教育活動、一体今まで何をやってきたかなってというようなことを、振り返りながら、十分できなかったな、と思いながらも、私はこの委員としての数年間で、大きく二つの事を学びました。一つは、県の大きな課題である人口減少、これをふるさと教育という視点から、どう克服していったらいいか、どんな取組をしていったらいいかということで、県庁各課が、課を越えていろんな連携をとりながら、協働して取り組んでいるというようなこと。それから学校教育においても、特に高校生を中心として、自分たちの県を何とかしなければいけないという学習を展開してるっていう、そういうこれから、長崎の大きな課題であることに対する今の取組、現状と取組を、知識として、しっかり勉強することができたなっていうのが一つなんです。

それからもう一つは、委員を数年間やってきましたが、私は、自分自身が育てられたな、という気持ちがあります。私のような人間が、後輩たちから、どんどん出てくればなあと思っています。先ほど南島原市の紹介をされたんですが、最後の方で、自分は地域でどう関わっていったらいいの、自分は今何ができるのかっていうような、そういったことを、もう子供が考え始めてるっていうのが報告ありました。私も振り返ってみたときに、先ほど委員として、個人の活動を可視化するっていう中で、ドキッとしたんですけど、自分は可視化した時に何も見えてこないんじゃないかな、と思ったんですね。自分は、可視化された場合、今まで社会的な活動をしていない、これから自分は、南島原市の若者のように、何かできることがあるんだろうかっていうことを考えました。自分にできることは何かっていうようなことで考えてみた時に、自分が興味・関心があるようなことでないと、無理やりに自分が飛び込んでいっても、それは持続しないだろうと。今ここ10数年関わっている国際交流活動を基にして自分が今何ができるのかな、この長崎県の活性化のためにできるかな、というよう

なことを考えるんですね。そういう意味でもし社会教育委員をしていなかったら、多分ここまで自分は育ててこなかったのではないか、という気がします。ですから、私のような気持ちを持てるような若者が、どんどん増えていけたらな、そういう場を提供できたらな、と思っています。

江頭委員長さんも言われたんですけども、県の社会教育委員の活動で、大変実りの成果はあったんですけども、今度それを市町はどうしていくのか、そういったところがこれからの課題であると、私も同じように考えておりました。

#### ○委員

2年間、公募委員として、社会教育委員に携わらせていただきありがとうございました。私にとっての社会教育っていう部分に関しては、全くわからないところから始まり、県民目線の委員として遣わせていただいたときに、まず最初に江頭先生から言われたのが、「動きなさい」というのが、まず僕の心の中に入った一言だと思います。この2年間たくさんのところに伺う機会を、生涯学習課さん、他の課の方からの依頼などにも、できるだけ顔を出させていただくことができました。そのことによって、本当にこの2年間で多くの方と知り合いになることができました。

それは僕にとっては、とても宝物になったと思います。特に、高校生との出会いというのはやはり大きかったです。今の高校生が考えているのは、大人が作ってあげたまちに住みなさいね、ではなくて、自分たちが自ら住みたいまちを作ろうとしている、というのが、いろいろな話の中で聞いていく中でわかってきて、県に戻ってくる？住みたい？と聞いたときには「住みたいです」とまっすぐな目で見て、答えてくれたというのは、とても大きな、2年間の財産になったと思います。また、県の社会教育委員会として、とにかく「動く」というところが一つ、僕のテーマで2年間あったものですから、2年の間に、他の市町の社会教育委員さんとお話することがあったときに、ただの「会議に出る社会教育委員」では駄目だと思います。そこをどう変えていくかというのが大きな課題だと思っていたので、他のいろいろな市町の社会教育委員さんに聞くと、同じ問題点をやっぱり抱えておられました。

そうすると、やはり県がモデルとなって、各市町にこういうふうな社会教育の運営をしていた方がいいよ、市町の中でこういうふうに落とし込んでいったらいいよ、というのが、これからとても重要なことかなと思っています。また、大きなプラットホームだけではなくて、僕たち市町にいると、いろんな人を知っているんですけども、大きなところで、いろんな会議でやって知っている人ばかりであって、残された地域の住民は、小さなプラットホームの中で生活しています。その小さなプラットホームをいかに活用して動かしていくかというのが、これからの社会教育委員と、社会教育としての一番大きな目標であって問題であるのかな、と感じています。そこでやはり、各部局の代表の方たちの中で、こういう小さなプラットホームを動かすために、うちの部局ではこういう活動をやることがで

きています、とか、こういうことをしています、こういう結果が出ていますということが、もしあればお教え願いたいと思います。会議ベースの大きなプラットホームで、いろんな方の代表が出てこられる交流、というのはよくある話ですけども、それよりもっと小さい、市町の中でもっと皆さんが、なかなか目につかないプラットホームですね、そういうところがどう動いているか、そういうところに力を入れてもらっているのかなというところが、これから僕は課題かなと思っているので、もしそういうのがありましたら、答えていただきたい。

#### ○地域づくり推進課

小さなプラットホームということであれば、小学校区単位で、地域運営組織を立ち上げ、多様な主体が集まって、地域の課題を解決していくような取り組みを推進しているところです。現在そういう団体が 88 団体ほどあります。先進的なところでいうと、平戸市や五島市。その他、長崎、佐世保市でもそのような取組が行われている状況です。

それを我々は今、県内全域に、250 箇所程度作っていかうというところで、今現在推進しているところです。

#### ○委員長

小学校区単位ということになるとコミュニティスクールあたりとの組織のかぶりが出てくる可能性があると思うので、是非関係課同士この場合も含めて、一緒にやれることはやれたらいいなあというふうに思っています。

#### ○委員

私も県社会教育委員を拝命して、最初の任期を終えることになりました。本当に勉強になりました、ありがとうございました。私の場合は小佐々地区でコミュニティスクールを展開していて、そこで地域学校協働本部の中で地域コーディネーターをやっているところから、この県の社会教育委員のお話をいただきました。最初は何なんだろうかと思いつながら、自分の勉強不足もあったもんですから、たくさん研修会の案内もいただいたので、できるだけ限り研修にも参加させていただいて、いろんな方々とのネットワークもできまして本当にありがたかったなと思います。これから先、いろいろここで勉強させていただいたんですけど、これまでの話にも出ていましたけど他部局の方が入ってこられていることが、私の方も委員として初めてでしたから当たり前と思っていましたが、全然当たり前じゃないんだというようなところですね、そしてさらにはこれを市町におろしていかなければいけない、という意見がさきほどから何回も出ていますが、先ほどの事例発表のところでも、南島原市であれば、自治会の連合会やら、市の市民生活部、それから教育委員会生涯学習課とか、そんなところが、あと西海市も教育委員会やら市の社会教育の会が主催してやっておられる。

こういう場が市町でも盛んに起こってくればいいなと思います。2 月の県の研修会で、佐世保西高の発表がありました。長崎南高の発表もありました。佐世保西高の発表が何で佐世保市で聞けないのかな、と思いました。

南島原市や、西海市ができて佐世保市は何でこういうのができないのか

な、と思うんですが、これはどこがどう音頭をとっているのでしょうか？

#### ○事務局

佐世保市で佐世保西高校も発表はしています。ただ、なんていいますか、今さっきのような生涯学習の集いとか、そういう形ではなくて、行政の方に、こういうことで、まとめましたっていうことで発表しております。

#### ○高校教育課

佐世保西高については、学校をあげて、「ふるさと創生大作戦」と銘うって、地域の課題のみならず、長崎全体の課題とか、魅力について考えて活動をしています。その報告を、市長に提言する、という形での発表会をいたしました。先ほど委員がおっしゃったように、やっぱり社会教育委員の会議みたいなどころでの発表は今のところないんじゃないかなというふうに考えております。県での発表会の時には、例えば佐世保西校とか、長崎南高、またその前は五島高校なども、お声掛けをいただいて発表させていただきました。おそらく、今、高等学校はどこでも探求というところに、体系的な学びを推進しておりますので、地域に根差すような活動をできるだけしようというところで、「ふるさと教育」を推進しております。市町レベルでもお声掛けをいただければ、強制になると、厳しいんですけども、お声掛けいただければ、班単位、グループ単位、もしくは全体的な説明というところで、学校から発表する機会は持てるんじゃないかなと思っています。またそのときの、学校外の大人の方からのフィードバック、これが子供をさらに成長させ、磨き上げてくれますので、ぜひそういうチャンスがあれば、考えていただければと思っておるところです。

#### ○委員長

おそらく壁だと思います。高校は学校教育だから、社会教育で呼ぶ必要はない。まず、市町等の事業企画の中で、学校に発表させる、という発想をそもそも持たない。そういうことで、いわゆるさっき言ったように、小さく社会教育を矮小化した発想で事業運営をすると、おそらく学校に参加してもらおう、という発想にはならないというのが1点。2点目は南島原市にもこの前話したのですが、いつまで県立学校に頼っているのか、南島原市立〇〇中学校とか〇〇小学校の実践を発表させていいのではないかと。高校がすばらしい取組やっていることはわかっているが、いつまで県立（高校）に依存するのか、という話をしたんですよ。

だから、より身近な地域の子供たちが、ふるさとのために頑張っている姿をどう届けていくか、ということも一つの切り口として、社会教育関係者が持っていく必要があるんだろうなっていうふうには思っている。是非それぞれの市町にも働きかけてください。

#### ○委員

2点ございます。

1点目ですが、実践的人材の育成というのは、やっぱり「いい顔」の人を増やして、ありがとう、という言葉が飛び交うにはどうしたらいいのか

な、ということなのかなと感じたことと、自ら考え行動する社会教育委員と言ったって、結局やはり、いい顔で活動している社会教育委員をどういうふうに増やしていったらいいのかな、ということ、この8年で感じました。ただそのときにとってもありがたかったのが、今日もたくさん来てくださっているんですけども、県庁の関係の課の方々ですね、今長崎県でリアルタイムにどういうふうに行政が動いているのかというのを、教えてくださったのが、どういうふうにこれから活動していけばいいのかという参考になって、助かりました。ここで、一つお伺いしたいんですけども、私にとっては少なくともとてもありがたい機会だったんですけども、関係課の方々にとっては、この社会教育委員の会議に出席するっていうことは、どのようにいいことがあったとか、もうちょっとこんな感じだったらいいのになあとか、そういう感想があれば、お伺いしたいというのが一つです。

二つめですが、例えば、私が今年度まで会長していたPTAでも、コロナになって、社会教育活動全般、育友会活動ができなくなっちゃったんですよ。そこで不安になったのが、もしかして、活動しなくても、学校活動って成り立っていくじゃん、そしたらPTAなんて結局いらないんじゃないのって、来年言われるのがすごく怖くて、とてもドキドキしていました。でも、そこで、私たちがみんな考えたのが、でも結局、今時間があるから、見直しが今までできなかったよねって、突っ走るばかりなので、これをいい機会に、じゃ何を本当に残したらよくなって、どういうふうに変えていけばみんなが楽しく活動できるようになるのかなっていうのを、振り返る期間にしようということで、そういうことに1学期をあてることにしました。この8年で学んだことの中で、いかにネガティブなこと、マイナスなことをプラスに転換していくのかっていう視点を学ぶことができたので、これから先も、そのように、なかなか収束することができない中で、withコロナとの付き合い方を思うんですけども、プラス発想ということがあると、きっと乗り切っていけるような気がしました。

#### ○委員長

地域づくり推進課の参事さん、この会に継続的に参加して下さっているとしますので、よろしくお願ひいたします。その後につけて特別支援教育課の参事さんお願ひします。

#### ○地域づくり推進課

地域づくり推進課では、集落、地域コミュニティの維持、という観点で取組をさせていただいています。いつも、毎回この会議には参加させていただいていますが、先ほど地域運営組織という話をしましたけれども、その地域運営組織とは、PTAであったりとか婦人会、老人会、或いは青少年健全育成会とか、そういったメンバーの方々と、地域の課題をどうやって解決していくかという取り組みの観点で、今、仕事をさせていただいています。

具体的な例で言いますと例えば、島原市においては公民館活動を機に、

防災というキーワードに、その地域運営組織の立ち上げに繋がった事例もありますし、そういった点で、社会教育活動は、我々にとってはいろんな情報を得る機会だと思っており、情報を共有する機会でもあり、出席してよかったかなと思っております。

#### ○委員長

本当に地域づくり推進課とは一緒に共催したり、情報をいっぱいもらったりするっていうことがあるんで、いろんな課ともそういう関係は、濃密な関係が今まで以上にできていると思っています。

#### ○特別支援教育課

私は、今回初めて参加をさせていただいております。私ども特別支援教育課の所管は、特別支援学校の児童生徒になるんですけども、今私たちのキーワードとなっておりますのが、障害のある人もない人も共に生きる「共生社会の実現」というのが一つのキーワードとなっております。具体的に申しますと、特別支援学校は県立でございますので、市町でも広範囲のところから子供たちが通学してまいります。

例えば、大村にある虹の原特別支援学校ですと、長崎市、それから諫早市、大村市、川棚町等々からですね、子供が通って参ります。

なかなか地域との繋がりというのが薄くなりがちなものですから、今私どもが力を入れておりますのが、居住地校交流というのがございまして、特別支援学校に通う子供たちが、自分の住んでいる市町の小学校や中学校に行き、そこで授業を受けるというふうな活動を、今力を入れてやっているところでございます。江頭委員長さんがおっしゃったようにですね、縦割り行政になりがちで私どもでもございますけども、今回このような場に参加させていただいて、横割りの関係課というところと、そして社会教育委員の皆様方と、いろいろと協働してできることがいっぱいあるんだなというふうな可能性を感じたところでございます。

#### ○委員長

社会教育の役割は、僕は所詮、分野分断の橋渡しができるかどうかにかかっているんだろうと思う。何も社会教育委員会を設置しなくてもいいんです。どこかが分野分断の橋渡しを、できるような環境ができれば、それはそれでいいなと思っているんですけどね。

#### ○委員

私も2年間、公募委員として参加しました。なかなかこう、島からということで、飛行機が飛ばなかったり、船が欠航などで、なかなか参加できなかったりしたのですが、今回最後ですけど、また、リモートということで遠くからですけども、一緒に参加できてよかったです。今、私は地域の婦人会長も務めています。子ども達の健全育成、また、地域の活性化等、会員もどんどん減っているんですけども、そういう方たちに、なぜ婦人会が必要かっていうことをすごく今、どう伝えていっていいかわからないような状況でいます。通常はそう思っている人でも、コロナなどの非常時に地域で活動できる婦人会である、ということを思っています。このよう

な場に参加させていただいて本当に良かったと思っています。今後ともいろんな交流ができれば嬉しいです。

### ○委員

今まで参加させていただいて、いろんなとこの活動を見せていただいて、よかったな、勉強になったなあと思いました。たださっき佐世保市の話が出ましたが、佐世保市は地域が広いために、自分が動くってことはなかなかできていないな、と思いました。

それで、去年、地域で動いてみました。そうしたらこども未来課さんとか、それから長寿社会課さんとか、社会教育課さんもそうなんです、手を貸していただいて、子供に、「地域の人から生きる力を次世代へ」という題目で、助成金をいただきまして、それで、小学生・中学生、地域の高齢者の方たちで、子育て世代のお母さん、親子に集まっていたいて、調理をして、食べて、片付けて帰る、ということは何回かにわけてやったんです。

本当は、その時の一番最後に、全員がそろって参加してどこの世代も参加して、やってみたいなと思ったんですが、コロナの関係でできませんでした。少子化もありますし、子供もなかなか地域のおじいちゃん、おばあちゃんと関われない、場所もない、そして、行き帰りも、おはよう・おかえりって言葉の挨拶も学校ではできるけど、地域ではなかなか声がかかけられない、大人もかけられないし、子供も返事ができない。それとやっぱり、佐世保ってというのは土地柄もあるんでしょうが、転勤族が多いので、若いお母さんたちも、よそから来たら、部屋の中に入ったきりで子育てをして、でも地域を見ても誰も声をかけてくれないっていうのがあって、不安がいっぱい。そこで、集まっていたいて、参加者をお客様にしないで、全員で作る、ということでやりましたら、世間ばなしが盛り上がり、終わった後には、普段は話さないけど、いざっていうときは助けてもらえるような人たちがいるもんだなっていうのがわかって安心しました、と言っていたことがありました。

だから社会教育って、その大きいところで模範的なものってだけではなくて、小さなことをやれる人たちが、ポチポチとやっていくのが一番いいのかな、と考えさせられてそういうふうな考えを与えていただいてありがたかったです。

### ○委員長

教育委員会というのは組織が先にあるんですよ。

だから、その教育委員さんを任命するという作業がありますが、社会教育委員っていうのは、個人。だから社会教育法上、社会教育委員会なんてどこにも書いてない。だから、地域でそれぞれ活躍してる人たちがこうやって年に3回集まって、活動を通して、町の状況を一人一人の困り感というのを伝えながらそれを、社会教育の施策や、県の施策の中でどう反映していけばいいのかなっていう意見を言う場だと思うんで、それを独任制というんですね。

だから、それぞれが活動していくということがとっても大事なことなん

だろうなと私も、この場にきて勉強させてもらいました。

#### ○委員

先ほど、私も自分自身何ができるかなと、何か実践できるかなということを考えるようになったというお話をさせていただいたんですけども、私どもがこの会議で目指す地域像を描いて、そして三つ方策を立てていますよね。最終的には、実践的な人材を育成する、と。

その前にはやはり協働プログラムを作るっていうそれこそステップが前にあるわけですけども、その協働プログラムを作るというところの。ところで、柱が三つありますが三つ目の、一般行政、NPO、企業大学等と連携したプログラムを開発する、とありますよね。

地域にある既成の、そういう団体とは、非常にプログラムを作りやすく、そういう実践もなされているということがよくわかっているんですけども、そのNPOとか企業大学等と、連携したプログラムの開発、これどうなったのかなあ、と。そこから、そういうのを通じて、企業とか大学等、連携を図りながら人材が発掘されてきたのかなあ、と。

それと同時に、人材育成のところの二つ目の高齢者を積極的に登用すると書いてあるんですけど、これどうだったのかな、というところでもしわかる範囲で結構ですけどもあれば紹介していただけますか。具体的な取組の成果っていうのが見えてくるかな、と思いました。

#### ○委員長

長寿社会課さん、高齢者の活用という視点で何かありましたら。

#### ○長寿社会課

長寿社会課におきましては高齢者の皆様が、元気で健康で生き生きと過ごしていただくために、色々な取り組みを行っておりまして、特に今力をいれておりますのが、ながさき生涯現役応援センターという取組を進めております。

この取組の中では、今までは、長崎西洋館の相談窓口だけで、高齢者の方の相談対応というものを行ってございましたけれども、今年度からは、市町と連携をして、先ほどお話のありました場の提供ということで、高齢者の方が地域でデビューしたり、就業していくということ、市町と一緒にセミナーを開こうということで、現在市町の方をまわっております。先週も、今日いらっしゃっております藤田さんのところにも、ご相談に伺うなど、そういった取組を今行っているところでございます。

#### ○生涯学習課

高齢者の活用という視点でいきますと生涯学習課の方では、江頭先生へのオーダーがありまして、シニアカレッジの方で講演など、いろんなお話をさせていただく機会があります。シニアカレッジにこられる方々は、佐世保会場と長崎会場の2校あるんですけども、そちらで、本当に学ぶ意欲の高い方々がお集まりで、そこで社会教育のよさとか、繋がるよさ、学ぶよさなどをお話しております。また、私たちが、地域学校協働活動っていうのを進めているんですが、各校区で高齢者の方々、シニアクラブ



とか、老人会の方々に入っただけで、いろんな子どもの体験活動のサポートをしていただいたり、放課後子ども教室の指導者等で、高齢者の方々に来ていただいて、昔遊びを教えていただいたり、ということをしていただいています。

#### ○委員

私の方は公民館活動の方で、高齢者の方がたくさん公民館にお勉強しにこられたりすることもありますけど、繋がる機会があります。江迎地区公民館ではシルバー塾、江迎大学っていうのを毎月開催してまして、これに登録者が百名ちょっといるんですけども、大体半分以上の出席率がありまして、毎月楽しみに学びにいられています。学ぶ講座の中で、あちこちの地区のことに興味がある方もおられるんですけど、友達を見つけにこられる方もいらっちゃって、途中で、グループワークなどを取り入れたりして、防災のシミュレーションゲームとかを通じグループを作ってもらって、話し合いをしてもらったんですが、そういったことで、毎回来ているけれどもしゃべったことがない人とも話せることができた、ということの感想もいただいております。ほかに、「毎月毎月この会議でいいお話を聞いて、楽しみです」とおっしゃってくださっていて、長崎県民大学のカウンタもしてまして、修了者には修了証書を渡したりとか、あと生涯学習課からのポイントをいただいたりとかしているんですけども、今年度は終了式もコロナの関係でできなかったんで、とても残念です。今度は、いつから始まりますか、というご意見もあります。45年ぐらい続いているのですが、今度はいつから開催されますかって言われてまして、それもちょっとこのコロナの関係で、高齢者は公民館に集まっていけないようになっていきますから、なかなかですね秋口できたらいいねっていう話をします。やはりそういった機会に出会った方たちが、私が実践しております江迎小児教室のサポーターとして、子供の補助につきますよ、ということで、一緒に入ってくださいたりとか、そういった昔遊びとか、田植えとかの活動もですね、たくさんサポートをしてくださっております。

#### ○委員長

来週、すこやか長寿財団のいきいきシニアカレッジで話をします。生徒は、最高齢 91 歳ですよ。何の話をしようか、と悩んでいるんですが。生涯学習っていうのは学ぶことを学び続けるだけ、これは必要条件であっても十分条件じゃないんですよ。もう一つ学びの成果を還元して初めて生涯学習は完結するわけですよ。だから、学ぶばかりで、学んだこと生かす場がないというのは、やっぱり、大きな課題になってくる。

ただこれは、県のステージだけでは限界がある。小学校、中学校、高等学校との繋がり、公民館等活動の繋がり、或いは、地域活性化の組織団体の中での活動とか、いろんなステージの中で、ご高齢の方を活用していくような仕掛け・仕組みをどう作っていくかということが、おそらく大きな課題になってくるんだろうなと。だから今度のシニアカレッジでは、勉強ばかりでは駄目だ、動いてみよう、という話をしようかと思っています。

私も高齢者ですが。

### ○委員

この社会教育委員の会議に長いこと携わらせていただいて、一番変わったな、と思うのは前にも言ったかと思うんですけど、たくさんの課の方が協働して、いろんなところから知恵を出し合って、できることはないかっていうのを、一緒に考えて、そのあと、世代層の幅がものすごく広がって、実効性のある、そういう委員の会議の働きを担っている、というのが、本当に素晴らしい成果だなあと考えております。

私が今抱えている課題なんですけど、やはり皆さんと同じように新型コロナウイルスの影響で、まず地域の方が「読み読みの会」とか「読み聞かせの会」の方だったり、登校支援してくださる見守りをしてくださる老人会の方々が、ちょっと今は活動ができない、ということで、学校等いろいろ繋がってた地域の方々との関係が、今ずっと切れてしまってるのがすごく不安です。これがいつになったら再開できるのか、このままこういう形でできる形を模索していくべきなのかっていうのが、しりすぼみにならないかなんていうのが一番ちょっと心配しているところです。

あと休校になって、子供たちに一番大切なものは、体を動かして遊ぶことなんだな、というのを本当に実感いたしました。ストレスがたまって休校になって、担任が家庭訪問して帰ってきたら、ほとんど口を揃えていうのがぽっちゃりしてました、と言って皆帰ってきます。やはり運動不足で、これは心身に良くないなと。よく報道等でも虐待が増えたとか、言われるんですけども、私もこの1ヶ月で要対協に2回も参加しましたし、あと何件か個別に相談を受けているのがあります。お父さんが未熟だなんて。

なんかお父さんが育てないな、と思う例がすごくあって、これは人権の方とか、家庭教育の方とか、そういうところとかも、連携しながら、お父さんがそういう社会に関わっていく、親父の会なんかで本当に昨日も田植えとかも関わってくださる方もいらっしゃる反面、家庭の中でそういう問題がポツポツと増えつつあると感じました。新しい生活様式というか、一緒に考えていかないといけない課題なのかなっていうふうな痛感しております。

### ○委員長

私、SDGs長崎クラブっていうのを立ち上げてその中にはいろんな人達がいるわけです。医者とか心理士とか、DV防止の組織の人達とか、やはり、問題は深刻化しているという状況がこの前報告されて、どうにかしなきゃいけない、という話があった。

つまり、with コロナを前提とするなら、そういう社会教育は、PTAや家庭教育を含むわけですから、だから、いろんな組織と、DVの問題は社会教育だけでは解決できません。家庭教育だけでもできませんよ。福祉だとか学校教育とか、よってたかってやらないとできないわけです。だからそれを一つのセクションだけで解決しようなんていうことは、はじめから無理な話なんですから、今言ったように、子供の現実から立ち上げて協働

できる環境を作っていくかというのは、社会教育の課題でもあります。分野分断をやめよう、ということの意識を、これから作っていかなくちゃいけないんだろうなというふうに思ってます。

#### ○委員

私も4期8年務めさせていただきましたので、これで終わりになりますが、参加させていただいて、やっぱり社会教育員会の可視化、それから教育委員さんとの、合同協議とか、或いは市町の教育委員さんとの協議会など、実績が随分、積み上げられてきたなあと思います。もちろん答申もでき上がりましたし、先ほどから話しにあがっておられるように、知事部局の方もこれがたくさんの方が来ておられますので、今後続けていただいて、私たち社会教育委員の会議を支えていただければと思っています。

#### ○委員

私も初めて公募という形で選んでいただいて、すごく感謝した2年でした。社会教育っていうのはなんか枠がないのかなっていうふうが一番感じましたので、何でもできるたい、みたいな感じで、自信を持って自由に動かさせていただいた2年でした。

今回コロナというものがきたんですけれども、私の活動は止まりました。でもやっぱり考える時間を与えていただいたってということで、さあ、次どう生きるのかな、どう動いていくのかな、というのをしっかり、この3ヶ月間考えさせていただいて、やっぱりもう一度、居場所を作りたい。今度は高齢者さんだけじゃなくて、共生型ですね。障害の方も、若いママや子供たち、それから川棚町は外国人の方がすごく就労できてらっしゃいますので、その若い子たちが、町を潤う、といったら失礼ですけど、よく動いていますので、その子たちも入れて、ミャンマーから来られている方が多いので、ちょっとその辺の交流をしてみたいなというような夢がありますので、ぜひ、今度のできた居場所にはですね、先ほど言われましたように高齢者さんたちに、もう一度社会デビューというかですね、100年もあるけん、まだ70はまだ、まだまだ長いって感じですね。まだ担い手にならなくて、っていうような感じで、一緒に歩いていけたらいいのかなと思っています。ぜひ、いろんな課に関わっていただいています。長寿社会課はじめ、人権・同和対策課、こども未来課、それから地域づくり推進課の方にもたくさんの力をいただいています。今このコロナでどう立ち上がっていくのかっていうところで、市町の方にいろいろな助けの手を、県だけでなく国からのそういういろいろなものをぜひ情報提供していただいて、みんながもう1回元気で笑顔で立ち上がれたらいいのかなと思っています。2年間ありがとうございました。

#### ○委員

P T Aをうちの息子が今年21歳になるので10何年くらいさせていただいて、今末っ子が中学校に上がって、あと6年くらいP T A活動をさせていただくんですけど。

この10何年のうちに、いろんな市とか県の「充て職」っていう形でいろんな会議に参加させていただいて、すごく思ったのが私自身がすごく安心をいただいたんですね。

P T Aの中でもあんまりこう知らない時には、いろんなみんなで愚痴を言ったら、何でもこうなるんだろうって言ってたのが、いろんな会議に出ることでこんなにたくさんの方が、子供や自分たちの子育てについて、たくさんの方が考えてくれている、ということが、すごく私は、感謝の気持ちが湧いてきたし、それをもとに私もまたP T A活動もできたなあっていうので本当に感謝の気持ちしかありません。それで、うちの地域は私が住んでいるところは競輪場の近くなんですけど、子ども会は1世帯、うちだけなんですね。なんですけど、すごく地域の方に恵まれていて、そこに稲荷銀座っていう地域があるんですけども、いつも8月にある夏祭りには、地域の方たちが集まって、それこそ皆で一緒にご飯を食べたり、地域の元気な方が80代、90代の方も多いんですけど、その方たちともお酒を飲んだり、私たちを大切にしてくれる、子供を大切にしてくれるので、そういう会に参加すると、すごくその地域に住んでよかったなって思います。私たちは鹿児島島出身なので、佐世保の人間ではないんですけども、何かこの地域に恩返ししたいなっていう、またそこでも感謝の気持ちが湧いてきて、それって、先ほども言われているように、普段の、「おはようございます」「こんにちは」「今日は暑いですね」というその声かけの積み重ねというか、それが自分たちの安全・安心にも繋がるということで、やっぱり私は、学童とか空手教室を個人でさせていただいているんですけど、私がP T A活動でいただいたいろんな安心を、今度は目の前にいる子供たちに、それを伝えていけたらなと思う。それしかないなあというものを最近すごく感じています。それでP T Aで出会ったママ友さんで、数ヶ月に1回、ランチ会をするんですけど、たまたまそのお母さんたちが支援学級のお母さんたちで、私が驚いたのが私にはない悩みで、この子たちは長く生きられないかもしれないっていう中で、どうやってこの子たちの幸せを、笑顔をふやすにはどうしようって考えたり、この子たちが中学校、高校に上がってどうやってこの子たちが、自立するには、どういうふうにしていこうっていう悩みを抱えているお母さんがいるっていう、私にはない悩みっていうのも、気づかされて、これからはそういう、いろんな方と今私はランチをするようにしているんですけど、個人個人の方に私がP T Aでいただいた安心を皆さんに伝えていって目の前にいる子供たちにいっぱい愛を伝えていけたらなと思っています。ありがとうございました。

#### ○委員長

やさしい気持ちになりますね。

#### ○委員

高等学校という立場から、この2年間ですね、社会教育ということで勉強させていただきました。ありがとうございました。2年間小値賀にあります北松西高校というところで私は仕事をさせていただいていたんですけ

れども、やはり先ほどの報告にもございましたように今の高等学校では、ほとんどの学校で、地域を知って、そしてふるさとに自分たちの力がどのようにいかせるか、というスタンスでの学び、探究活動をしておりますので、北松西高校でもですねやはりそういう活動をして、最終的には議会で議員さん、それから町長に提案をするっていうところをゴールにして、取組をしていました。やはりその中で私が思っていたのは、子供は普段の生活の中、地域のことを当たり前になって、よさや課題を知らないまま、高校生になってる場合も多いんだなあと思ったことが何度かございました。やっぱり子供たちは地域のことを知らない、最終的にどんなふうに地域を進めていったらいいか、どういうふうな街づくりができるかっていうことの提案はできないんですね。ですので、知る、ということをもまず第一歩とするならば、それを高校だけでやるっていうのはなかなか難しいところもございますので、先ほど出ていましたが、小学校や中学校の時から、地域を知ること、そして、例えば中学校になったらそしてそれを問う、ということですね、その地域に対して、質問したり、そういう場面があって、最終的に高校生の立場で、自分たちの力を地域にどういかせるとか、どういうふうに自分は地域に役立つことができるかっていうことが考えられるようになるんだなというのを痛感しました。そういうことも含めるとやはり先ほどありましたように、そういう学んだことをですね、発表する場、自分たちの考えを知っていただく場っていうのはとても大事。高校だけではなくてですね、小学校、中学校の子どもにとっても、そういう学びを成果として、皆さんに知ってもらい、発表する場、というのは大事だなというふうに思ったところです。

それと、そういう子供の、地域との関わりを通してですね、私が思いましたのは、やはりあの地域があって、子供がいて、そして学校があるということだなあというのを痛感しております、学校からも、子供たちをどんどん外に、体験の場として出していきたいな、というふうに今思っているところです。

#### ○委員長

突然高校があるわけじゃないんで、積み上げていくと高校の学びはさらに深く、非常に提言性の高い活動が生まれてくるんだろうと思います。そのまま義務教育が過去にさかのぼってふるさとのよさを学ぶ学習から、近未来のふるさとが背負っている課題に対して、学び、提言できるような環境、行動できるような学びをどう積み上げていくかということが、学校教育の、ラインとしての課題になってくるんだ、というご提言だったと思いますね。だから高校だけが目指しちゃ駄目なんだっていう話です。

#### ○委員

副委員長として、江頭委員長の隣に座らせていただいて、なんかいつもニコッと笑いながら、委員長と顔を見合わせるのが私の定位置になったような感じなんですけれども。先日、私が電話の中で、高齢者の方とお話を

していただんですね。それを聞いて話が終わった後に、孫が、「僕から見れば純ちゃんも高齢者やけんね。ちゃんとそこんところ自覚しとっと？」と言われたんですよ。で、ああそうか、小学校5年生の子供から見ると、私も高齢者なんだと、改めてこう感じたところだったんですけど。そこで今、私の地域の小学校の校長先生が、毎日ホームページで、学校の様子をずっとアップしてくださるんですね、その校長先生がある時「稲田さん、そろそろ後継者も考えとかんばいけんですよ」という話をされたんですね。

そのことと、「高齢者」と孫から言われたことが合わさって、周りから見るとそういう年になったのかと思いつつ、でも後継者を育てるってことは大変かもしれないんですけども、今一緒に活動しているのが、私1人で活動してるわけではなくって、私の周りにはたくさんの地域の仲間たちがいますので、その仲間の中から、あとは継いでくださる方が自然と、出てくるんじゃないかなっていうのを信じて、これからも地域の中で、社会教育委員としても活動をしていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○委員長

最後に、もう私が言いたいことは出てきたんですが、いくつかだけ。1点目は、やっぱり繋がることを大切にする、という立場を、私たちは一応していくということが大事なんだろうなあとというふうに思います。僕はネットワークという言葉は嫌いなんです。ワークネットというべきだと思ってるんです。一緒に汗を流せるものも共有していかないと、情報だけが繋がっていくだけでは、からだが動いていかない。一緒に何かをするものを見つけて、そこで繋がっていくという発想を。社会教育は理念ではなくて、汗をかくことです。そういう繋がりを使って作っていくというのが多分大事じゃないのかなと思います。それから、今日ずっとDVDでもありましたが、やっぱりなんばしよるかわからんとところは繋がらないんですよ。だからきちんと社会教育活動を見える化していくっていうのは今後も続けていく必要があるだろう。今日、来てくださっています関係課、意味のないところ、来る必要のないところだったら来てくれませんよ。

だから、社会教育とか、まちづくりが発展していくために、ここに来てよかったよねっていう力を見せていかないと、いろんなところと、幾つか繋がりが大事だと言ったって繋がっていくことはできない。だから、可視化しかなかった。だからこれからは、次の発展がまだいろいろ生まれていくんだと思う。

3点目は、学校教育っていうのは、小学校から高校までの学習、教育課程の範囲だけが学校教育でしょ。それ以外は全部社会教育ですよ。これは非常に間口が広いし、長いんですよ。だったら、今後は人生100年という立場を明確に持った社会教育の展開をどう考えていくか、ということが課題になるのかなと思います。さっき言いましたが、生涯学習課は学ぶだけじゃ駄目だ。学んだことを、地域に返し始めて生涯学習が完結。だから、例えば学校教育で言えば、学習指導要領の前文に持続可能な、社会の創り

手の育成、というのが出てます。担い手ではないんです。担い手だと後に伝える、という話ですから、今後混沌としていく社会を、どう創っていくか、ということが、教育の課題になってきている。これは子供たちだけじゃない、生産人口世代だって、高齢者だっておんなじだと私は思ってます。

だからそういった意味では、「学ぶ」ことと、「学んだことを返す」こと、そのことを、地域の中でどう仕組みとして作っていくかっていうことが課題になる。つまり、かっこよく言えば、知の循環システムをどう作っていくかということです。事業フレームでものを考えていくんじゃなくて、学び続け、学んだことを地域の中でお互いに返し合っていく仕組みを作っている。それがコミュニティスクールだったり協働本部だったり、いろんなまちづくりの組織だったり。そういう視点で、コミュニティスクールなどの施策の意味をとらえ直していくということが必要になってくるんだろうと。子供は支えられるだけの人間じゃない。学んだことを地域に返していく。小学生なりに中学生なりに高校生なりに。そしてその学びに高齢者や生産人口世代が関わっていくという循環の仕組みを小さな単位の中で作っていく。そうしないと、一人の負担が大きくなる高齢社会の中では維持できない。そういう社会のありようの提言を今後どうしていくかっていうことが大きな課題になってくるんだろうと思っています。

それから、さっき冒頭で言いましたが、僕は社会教育が活性化してると思っている。あまりにも、この日本の社会が、世界が背負う課題が大きく重いから、いろんなところがいろんなことをやり出してるわけです。SDGsの17の課題というのは、それぞれが一つの担当では何も解決できないという時代に入ってきたことを示すものだと思っています。社会教育は青少年及び成人を対象とした組織的な教育活動。もう、教育委員会や公民館の専売特許じゃないわけですよ、社会教育は。だからいくら愚痴をいっても始まらないので、できるだけポジティブにこの教育に関わっていくしかないのかなというふうに思っています。それから社会教育は人を育む、人をつなぐ。そしてまちを元気にする。このことについての教育の価値は普遍的だと。変わってはいけない。しかし、それをどういう形で進めていくかというのは、時代によって社会によって変わっていくべきだ。変化しないために変化していく。変わらないために、どう変わっていくかということが、これは社会教育だけじゃない、教育全般に共通する課題になるのかなというふうに思っています。そういう課題が、これからの私たち社会教育に関わるものの大きな課題になるのではないかと、いうふうに思っております。さっき松尾委員から言われましたが、松尾委員もご存知ですが、最初の2期ぐらいは僕は、変えるために事務局に厳しかった。後半の2期はだいぶんやかましく言わなくなってきた。確かに随分と知事部局の皆さん方、学校教育関係セクションの力をえながら、変わってきた。変わらないために変わってきた。そういうものがやっぱり実感できるようになってきたなと思っています。厳しいことを言われて、耐え抜いた生涯学習課の皆さんとか、知事部局の皆さんとか、教育委員会の課のみなさんとかに、

(5) 生涯学習  
課長挨拶

35期の終わりという節目で、一応お礼をいただきたいというふうに思います。これを期に松尾委員は、やめると言われましたが、今期でご退任される委員さんがたも本当にありがとうございました。ぜひ、委員を辞めることが社会教育との縁の切れ目じゃないので、むしろ委員という肩書きを脱いで、自分のそれぞれの立ち位置とか、地域の中で何ができるかっていうことを、これからも探していく、という関わりをこれからの活動をとおして継続をしていただければなというふうに思っております。35期の委員の皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。事務局にお返しします。

○事務局

それでは、第35期の最後の会議にあたり、生涯学習課長より一言お礼を申し上げます。

○生涯学習課長 挨拶

江頭委員長のお話で、本当に35期全体がまとまったような形での総括をされていますので、私の方からは、重ねてになるかもしれませんが皆様へのお礼と、幾ばくかの感想を交えながら、最後にご挨拶をさせていただければと思っております。

まず、本日、先ほど委員長が雨男だとかありましたが、荒天の中に足をお運びいただきありがとうございました。また、壱岐の委員も、オンラインでのご参加ということで、なかなか普段とは違った環境だったと思いますけれども、ご参加いただきありがとうございました。私は、生涯学習課にこの4月からですので、この最後の1回しか参加させていただいていませんけれども、これまでの5回を積み上げた、本当に皆さんの思いとか、濃密な関係課の皆さんも含めた関わりの中で、この会が、35期続いてきたんだなということを感じております。そういった意味で、まず1点目の御礼としまして、この社会教育委員の会議、これを積み上げてこられた委員の皆様、そして関係課の皆様、本当にありがとうございました。私は初めてこの会議に参加して、いろんな刺激を受けながら、もっと、前の会議から参加したかったなという思いでおります。

それから二つ目としては、社会教育委員の皆様が独任制ということで、各地域で様々な形で関わっていただいたことへのお礼を申し上げたいと思います。私は、福田委員と同じように高校の教員なんです。やはり、ずっと話が出ているように、各地で地域の方と関わりながら、高校生がいろんな模索をしています。私が所属した離島の学校でもやはり同じように、地域の方々の力を借りながら、高校生が自分の地域のことを考えたり、あり方を考えたり気づいたりという活動をしています。そういったことに、委員の皆さんもそれぞれの地域で、子供たちにも関わっていただいていたんだろう、そして、地域のためにということで活動していただいていたんだろうと思っております。そういった意味での、お礼を申し上げたいと思います。

そして、最後に、3点目になりますけれども、関係課の教育庁の3課、そして、知事部局の各課の皆様、本当にありがとうございました。私も教



育委員会には 10 年以上所属をしているんですけども、こういった場に  
参加する機会がありませんでした。

そういった意味で、「大変だな」という思いと、「うらやましいな」とい  
う思いが混在しながら、この今日の会議に参加していたんですけども、  
いろんな形で、これまでも 5 回の会でもいろんな情報を提供していただ  
いたり提言をいただいたと伺っております。本当にありがとうございました。

感想めいたことを申し上げながらですけども、「社会が変われば社会教  
育も変わらなきゃいけない」という言葉が私の中ではすごくインパクトが  
強く残っておりまして、それは、学校教育もそうだろうと思いますし、そ  
して、コロナのこの影響を受けて、やはり、これだけ広いスペースを使っ  
て会議を開くこともそうでしょうし、今、離島の委員がオンラインで参加  
いただいていることもそうですし、コミュニケーションを取ることが、社会  
教育、学校教育も含めて、すごく大切なんだろうけれども、それが取り  
づらい状況にも、我々は置かれてしまって、その中で 100%じゃないにし  
ても、どういう形で、100 に近いコミュニケーションの場を作っていくか  
っていうことを、私たちも知恵を出しながら、考えていければと思ってい  
ます。そういった意味では、35 期の皆様の蓄積されたものをもとに、36  
期がまた新たにスタートいたします。

継続して委員を引き受けていただいている皆さんもおられますし、そし  
て、この会で社会教育委員としてはご退任いただく方もおいでになられま  
すけれども、ぜひ、それぞれのお立場で、また、本県の社会教育を支えて  
いただければと思います。

最後に、重ねてになりますけれども 35 期で、委員を終わられる皆様、  
最も長い方は、委員長を含め 4 期 8 年の方々がおられますし、短い方は、  
1 期 2 年ではありますけれども、本当にこれまで支えていただいたこと  
に対して、お礼を申し上げて、最後の挨拶とさせていただきます。本当にあ  
りがありがとうございました。

### ○事務局

今、生涯学習課長の方からありましたが、2 年の審議会の 4 期というこ  
とで今回をもって満了する委員をご紹介させていただきます。

まず、江頭委員長が満期で、ご退任になられます。続きまして中野高子委  
員が同じく、4 期目が終わられました。先ほどお話いただきました松尾孝  
一委員も 4 期終わられました。それから本日、所用で参加できておりませ  
んが、菅富美子委員が 4 期で終わります。

あわせまして、今期をもってご退任をされるのが、福田雅子委員。それか  
ら、池山貴美委員です。有川政秀委員です。それから、3 人の公募の方  
につきましても、一応、今期で、公募という委員につきましてもご退任、と  
いうことになります。ありがとうございました。

皆様、本日は長時間の協議、ありがとうございました。

また、議事進行を務めていただきました、江頭委員長ありがとうございました。

|               |   |
|---------------|---|
| <p>(6) 閉会</p> | <p>した。</p> <p>これもちまして、第 35 期第 6 回長崎県社会教育委員の会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">終了</p> |
|---------------|---|